

平成30年度 うめ防除暦

【表示されている農薬の使用基準は平成29年11月末現在の登録内容です】

JA佐渡・うめ倶楽部

回数	散布時期 (生育状態)	主な対象病害虫	10a 散布量 (成木、手散布)	薬剤名	散布濃度	100% 当 薬量	収穫前 使用 時期	使用 回数	使用上の注意	防除 月日
臨時	休眠期	カイガラムシ類	100	機械油乳剤95	14倍	7L	-	-	・カイガラムシ及びウメシの卵塊は枝から除去する。 ・機械油乳剤95に替えてハーベストオイル50倍でもよい。	月日
1	3月上旬まで (休眠期)	カイガラムシ類 ハダニ類	200	石灰硫黄合剤	7倍	14L	発芽前	-	・無風、温暖日に丁寧に散布する。 ・機械油乳剤95散布後は1ヶ月以上間隔をとる。	月日
2	開花直後 (落弁期)	かいよう病	350	Zボルドー	500倍	200g	発芽前	-	・新葉にかかると薬害が発生するので、発芽前までの散布とする。 ・石灰硫黄合剤との近接散布は避ける。Zボルドーに替えてICボルドー66D50倍でもよい。	月日
3	4月中旬 (満開10～ 15日後)	アブラムシ類 ----- かいよう病	350	ダイアジノン水和剤34 ----- マイコシールド	1,000倍 ----- 1,500倍	100g ----- 66g	21 ----- 21	2 ----- 4	・ヤニ部分は幼虫を除き捕殺する。 ・ウメシの幼虫群は見つけ次第に捕殺する。 ・風当たりの強い園地は防風対策を実施する。 ・灰色かび病が多発する園はベルコート水和剤2,000倍(30日/3回)を加用する。	月日
臨時		かいよう病	400	スターナ水和剤	1000倍	100g	7	3	かいよう病多発園では、強風雨直前に散布する。	月日
4	4月下旬 (幼果期)	アブラムシ類 ----- 黒星病	400	モスピラン顆粒水溶剤 ----- オーソサイド水和剤80	3,000倍 ----- 800倍	33g ----- 125g	前日 ----- 21	3 ----- 3	・薬剤の収穫前使用時期に注意する。 ・隣接作物との薬剤散布について充分注意する。 ・カイガラムシ多発園ではアブロードフロアブル1,000倍(7日/2回)を単用散布する。	月日
5	5月上中旬 (果実肥大期)	アブラムシ類 ----- 黒星病 すす斑病	400	ウララDF ----- アミスター10フロアブル	4,000倍 ----- 1,500倍	25g ----- 66g	7 ----- 前日	2 ----- 3	・薬剤の収穫前使用時期に注意する。 ・6月に散布がずれこむ場合は展着剤は使用しない。 ・黒星病多発園ではフルーツセイバー1,500倍(前日/3回)を単用散布する。	月日
6	5月下旬～ 6月上旬 (収穫前)	アブラムシ類 カメムシ類 ----- 黒星病 すす斑病	400	スタークル顆粒水溶剤 ----- スコア顆粒水和剤	2,000倍 ----- 3,000倍	50g ----- 33g	前日 ----- 前日	3 ----- 3		月日
収穫後防除										
7	7月上中旬 (収穫後)	カイガラムシ類	400	スプラサイド乳剤40	1,500倍	66ml	14	2	・収穫後散布とする。 ・ウメシカイガラムシ第2世代のため必ず散布する。 ・スプラサイド乳剤に替えてスプラサイド水和剤1,500倍(14日/2回)でもよい。	月日
臨時	9月上旬 (収穫後)	アブラムシ類 ----- 黒星病	400	スミチオン乳剤 ----- デランフロアブル	1,000倍 ----- 2000倍	100ml ----- 50g	14 ----- 45	2 ----- 1		月日

※この防除暦以外の薬剤を使用する場合は、営農センター又は普及指導センターに確認すること。

- ・ 農薬を使用する前にラベルに記載された使用上の注意事項をよく読み、その内容を必ず守ること。

(農薬取締法により使用者責任が問われます。)

- ・ 散布圃場の周囲へのドリフト(飛散)に注意しましょう。(可能性がある場合は必要な措置を講じるよう努めること)
- ・ 防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期におこないましょう。
- ・ 園地環境(防風樹の整備・草刈りの徹底)をよくしましょう。
- ・ 散布作業には、マスク、手袋等安全防除衣を着用しましょう。

適期防除によりA品率の向上をはかろう！ 大玉生産と適期収穫で所得の向上をはかろう！